



## 園児とヤマメ放流



本自治会「こもんの会」では、5月26日(金)「こうりゅう虹子ども園児」と一緒に二俣川上流の

奥山地内の川に「地元名“こもん”(正式名ヤマメ)」400匹を放流しました。

こもん(ヤマメ)は古来より佐濃谷川上流の奥山、二俣、小桑に生息していました。先人によると、奥山、二俣あたりでは昭和40年代頃までは川で魚釣りをしているとももん(ヤマメ)が釣れたそうです。また、昭和50年代までは当該川に生息していたとのこと。その後の生息は不明ですが、絶滅したと云われています。

絶滅理由は①河川工事による大量のセメントの使用②大きな井堰ができたことで、海から産卵場まで遡上できなくなったなど。また③近年の水量の減少や水温の上昇なども考えられています。

「こもんの会」では、こもん(ヤマメ)が住めるような地域の自然環境の再生をとおして“ふる里佐濃への愛着を深めよう”と有志が集まり、令和2年「こもんの会」を発足させ、生息調査等も行ってきました。

### ● 大きくなれ!

この日はこうりゅう虹保育園の年長組27名が放流に参加。「大きくなれ!大きくなれ!」と声を出しながら、稚魚を放流しました。(写真:松本会長の話を聞く園児たち)





# 大地の学習27人が受講



## ● ジオパークとは…

今年第1回目の「おとなの笑学校」は、5/30(火)「山陰海岸ユネスコ世界ジオパーク」を題材に大地の学習を行いました。

講師には、湊小と橋小で校長をされ、退職後は丹後町域を中心にジオパークのガイドをされている畑中順二先生にお世話になりました。

この日は新規受講者5名を含め、これまでで一番多い27名の出席がありました。

授業は、まずジオパークとは…「地球・大地を意味するジオ(Geo)と公園を意味するパーク(Park)とを組み合わせた言葉である」ところからスタートしました。

## ● 再確認した本市の自然遺産

山陰海岸ジオパークの最大の特徴は、約2,500万年前に日本海の形成に関わる火成岩類や地層、日本海の海面変動や地殻変動によって形成された海岸地形など、貴重な地形・地質遺産があることです。

畑中先生は、山陰海岸の特徴を地形、地質、そこに生息する植物などをプロジェクターで分かりやすく説明。受講者は改めて本市の自然遺産のすばらしさを再確認する授業となりました。(↓日本列島の形成)



## ● ジオパーク内の山野草

授業の後半は、本市を中心にジオパーク内に生息する山野草の紹介に移りました。草花や山野草を育てている方が多く、畑中先生の説明にうなずきながら、受講していました。

## ● 給食も実施

この日は、①授業②恒例の歌声に加え③給食も実施。大変充実したおとなの笑学校となりました。

写真:熱心に授業を受ける受講生